

適期を逃さないよう、品種ごとに適切な穂肥対応を！

穂肥の時期となりました。生育診断を行い、茎数が過剰、葉色が濃い圃場では、穂肥量を減らす、または穂肥を見送るなどの対応を行いましょ。穂肥の増量、出穂直前の施用、多数回施用は食味低下の要因になるので、やめましょ。

●出穂期予測（7月10日幼穂調査）

普及課の調査圃の出穂日は、以下の通りです。

管内の出穂日は、「はえぬき」は早いところで8月2日、遅いところで8月8日、「つや姫」は早いところで8月8日、遅いところで8月15日頃となる見込みです。

幼穂による出穂予想(7月10日、庄内普及課:調査圃調査結果)

地域	品種	予想出穂期	平年出穂期	平年差
矢馳	はえぬき	8月4~5日	8月5日	±0
上清水	つや姫	8月10~11日	8月10日	+1
下小中	雪若丸	8月4~5日	-	-

●各品種の生育に合わせた穂肥を行いましょ！ 生育診断が重要です。

①はえぬき

- 7/10頃(10.5葉期)に生育診断を行います。幼穂形成期(出穂25日前頃:平年7/11頃)に窒素成分1.5~2.0kg/10aを基本とし、診断の結果をみて、穂肥の量と時期を決定します(表1)。
- 7/10における生育が茎数700本/m²以上、または葉色(SPAD値)40以上であれば生育過剰です。いずれかの場合は、穂肥量を窒素成分1.0kg/10aに減らします。両方に該当しているなら穂肥をやめます。

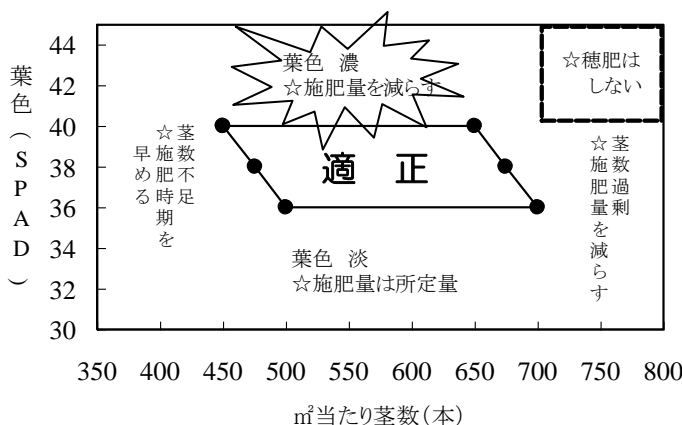


図1 はえぬきの7/10の茎数・葉色による診断と穂肥対応

表1 はえぬきの7/10頃の生育による穂肥対応

7/10頃の生育	診断	対応
茎数 700 本/m ² 以上	茎数過剰	減肥する
茎数 450 本/m ² 以下	茎数不足	すぐに穂肥を施用
葉色 40 以上	葉色濃い	減肥する
葉色 36 以下	葉色淡い	基準どおり施肥

葉色板で、5以上であれば減肥しましょ。

②ひとめぼれ

- 穂肥は、表2を基本としますが、出穂20日前(平年7/14頃)の草丈と葉色(葉色板)を測定し、表3のように対応しましょう。
- 出穂30～35日前(平年6/29～7/4)の草丈に30cm、出穂20～25日前(平年7/9～14)の草丈に15～20cmを加えた値がほぼ稈長となります。**稈長が82cm以上で倒伏程度が高まる**ので、これを目安とし対応します。

表2 ひとめぼれの基本的な穂肥体系(Nkg/10a)

	幼穂形成期 (-20日)	穂孕期 (-10日)
地力高	1.0～1.5	—
地力中	1.0～1.5	0.5

表3 ひとめぼれの7/14頃(出穂20日前)の倒伏診断と穂肥対応

7/14頃の生育		穂肥診断
草丈	葉色(葉色板)	
66cm	5未満	基本どおりとする
未満	5以上	葉色が低下した後に穂肥する
66cm	5未満	減肥する
以上	5以上	穂肥を行わない

③コシヒカリ

- 長稈で倒伏しやすいため、**作溝・中干しを確実に実施し、丈夫な根づくりに努め**ましょう。
- 穂肥体系は表4を基本としますが、7/20頃(11.5葉期)に生育診断を行い、茎数と葉色(SPAD値)から倒伏が懸念される場合は減肥します。減肥で対策が困難な場合は倒伏軽減剤(**※特裁では使えません**)の使用を検討します(表5)。

表4 コシヒカリの基本的な穂肥体系(Nkg/10a)

	幼穂形成期 (-18～15日)	穂孕期 (-10日)
地力高	1.0～1.5	—
地力中	1.0～1.5	(0.5)

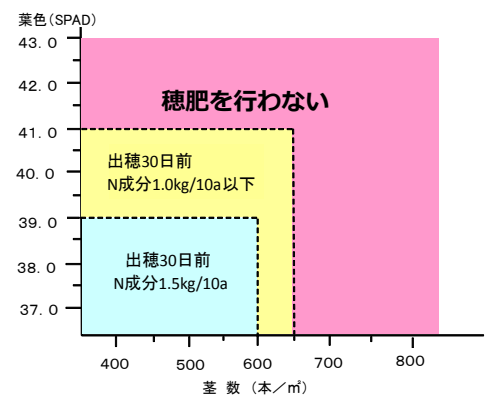
表5 コシヒカリの7/20頃の草丈×葉色による倒伏診断と穂肥対応

草丈 (cm)	葉色(SPAD)	草丈×葉色	対応施肥量 (Nkg/10a)
71	33	2300以下	1.0～1.5
72～75	34～37	2400～2700	0～1.0
76	38	2800以上	倒伏軽減剤使用

④つや姫

- 穂肥は、**出穂30日前(平年7/11頃)に行います。**
- **右の図のように生育診断**を行い、以下のような穂肥対応を行います。

- ① 茎数600本/m²以下かつ葉色39以下の場合は、出穂30日前に窒素成分1.5kg/10aを穂肥します。
- ② 茎数が600～650本/m²、または、**葉色が39～41の場合は**、窒素成分を減らして1.0kg/10a以下の穂肥を基本とします。
- ③ 茎数が650本/m²以上、または、**葉色が41以上の場合**は、出穂前25日頃まで葉色が低下したら、窒素成分を減らして1.0kg/10a以下の穂肥を行います。但し、**葉色が低下しない場合は、穂肥を行いません。**



- **斑点米カメムシ類の発生は、「やや多い」と予想されています。草刈りを徹底しましょう!**
- **葉いもちの発生は平年並みの予想です。圃場をよく観察し、早期発見、早期防除を!**



熱中症予防強化月間

定期的に水分と休憩を取りましょう